

学生生活ハンドブック

東京農業大学

2010

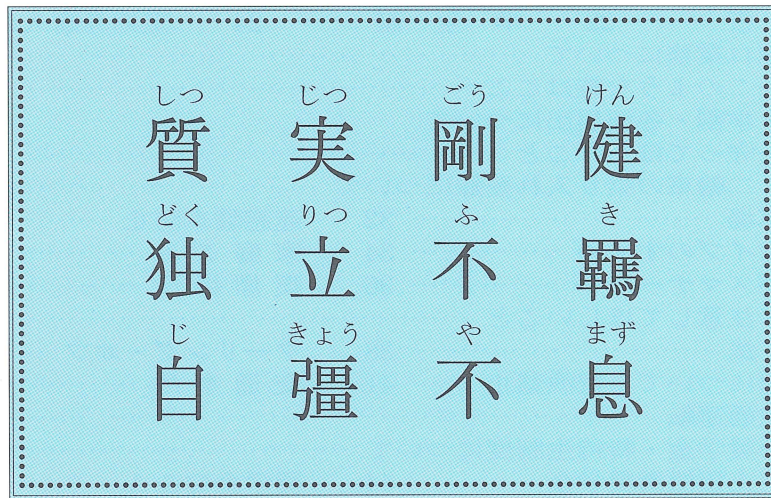
この本の内容は、学生ポータルサイトで閲覧することができます。
学生ポータルサイトについては、15ページをご覧ください。

生物産業学部

学生個人情報保護に関する本学の取り組みについて

本学では、学生の皆さんの教育研究及び生活支援に必要な業務を遂行するために個人情報を扱っております。このたびの個人情報保護法施行に際し、個人情報の保護に関する法律や政令、文部科学大臣が定める指針等の基準を遵守しながら、適切な取り扱いの取り組みを行っています。

(東京農大精神)



本学の初代学長横井時敬先生が好んで使われた言葉で、東京農大の精神といわれています。現代流に言えば「物質主義に溺れることなく、心身ともに健全で、いかなる逆境にも挫けない気骨と主体性の持ち主たれ」ということです。

目 次

建学の理念 ー実学主義の伝統ー	4
大学の沿革	5
緑と生命を考究する実学の府	8
創造性を育む場所と時期を意識したキャンパスライフ	9
大学組織及び生物産業学部教員	10
エコロジーキャンパスの取組み	12
東京農業大学における環境への取組み方針	13
平成22年度東京農業大学生物産業学部年間授業計画	14
インターネットを利用した学生サービス	15
Campus information	18

I 生活編

・ Campus Map	20
・ 学生生活～まず、覚えてほしいこと	22
掲 示 板	22
学 生 証	24
定期券購入の仕方	25
事務の窓口業務について	26
・ 学生生活～このような時はここへ	27
諸証明・学割・各種届出について	27
・ 学生生活～守ってほしいこと	30
自動車・二輪車の乗り入れ登録について	30
学生駐車場	32
エコドライブのすすめ	34
キャンパスマナー	36
迷惑駐車防止	33
家庭ごみ	35
喫煙場所	37
・ 学生生活～注意してほしいこと	38
悪質商法	38
薬物乱用について・密漁禁止	41
飲酒・飲酒運転	43
クーリング・オフ	40
交通事故	42
・ 福利厚生～奨学金・特待生制度について	44
日本学生支援機構奨学金	44
奨学金Q&A	45
特待生制度について	47
・ 福利厚生～遠慮なく利用しよう	48
宿泊施設	48
アルバイト・下宿・アパート	50
学生教育研究災害障害補償	49
・ 福利厚生～健康管理	51
医務室・健康相談・こころの健康相談について	51
予防すべき感染症について	52
ハラスメント防止	54
・ 課外活動	55
農友会	55
全学応援団	56
同好会	57
スポーツ共済の加入について	58
学生会館	59
・ 冬の生活注意辞典	60
・ 防災について	61
・ 緊急連絡	62
・ 「学部意見」にお答えします	63
・ こんなときどうするの? Campus Life Q&A	64
・ 就職と職能・資格講座について	66
キャリア・エクステンションフロア	67

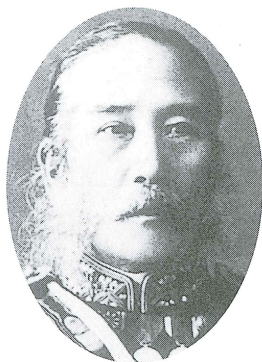
II 学修編

・ 履修するということ・学生諸君への注意事項	70
1. 授業科目と単位制	71
2. 授 業	71
3. 履修計画・履修登録	72
4. 試 験	75
5. 成 績	76

6. 進 級	78
7. 卒業・学位	78
8. そ の 他	79
9. 各種資格取得について	80
10. 他大学との単位互換について	81
11. 産業経営学科学生の単位互換について	81
12. 実学体験週間	82
13. 配当科目一覧	
(1) 生物生産学科授業科目配当表	84
(2) アクアバイオ学科授業科目配当表	86
(3) 食品香粧学科授業科目配当表	88
(4) 産業経営学科授業科目配当表	91
(5) 全学共通科目	94
III オホーツク学術情報センター利用案内	96
案 内 図	99
IV 国際交流について	101
国際教育プログラム	101
外国人留学生支援	103
V 生物資源開発研究所	106
VI 大学農場案内	106
厚木農場	107
富士農場	109
宮古亜熱帯農場	111
網走寒冷地農場	113
VII 食品加工技術センター	115
VIII オホーツク臨海研究センター	116
資 料 編	117
東京農業大学学則（抜粋）	118
学校法人東京農業大学学費収納処理要領（抜粋）	123
学生生活についての基準	124
特待生細則・生物産業学部特待生細則運用内規	126
東京農業大学奨学生規程	127
東京農業大学外国人留学生奨学生規程	127
学校法人東京農業大学ハラスメント防止等に関する規程	128
東京農業大学学生教育研究災害補償内規・実施要領	130
学生死亡弔慰金内規	132
課外活動における教室使用要領	132
遺失物及び拾得物取り扱い要領	132
東京農業大学海外派遣学生プログラム実施要領	133
東京農業大学海外派遣・受入学生弔意見舞金要領	134
自動車・二輪車乗り入れ登録要領	135
東京農業大学学術情報センター〔オホーツク〕利用規程	136
東京農業大学ネットワーク利用ガイドライン	137
オホーツク学生会館利用要領	138
校 舎 配 置 図	139
学 部 本 部 棟（1号館）	140
研 究 講 義 棟（2号館）	141
第一研究実験棟（5号館）	144
第二研究実験棟（11号館）	147
講 義 実 験 棟（8号館）	150
食品加工技術センター（9号館）	152
第一食堂棟（3号館）・学術情報センター（4号館）	153
第二食堂棟（7号館）	154
体 育 館（6号館）	155
オホーツク学生会館（10号館）	156
東京農業大学学歌	158
東京農業大学オホーツク・キャンパス讃歌	159
平成22年度東京農業大学生物産業学部カレンダー	160

建学の理念

——実学主義の伝統——



創設者 榎本武揚子爵

東京農業大学は明治24年3月6日、榎本武揚^{えのもとたけあき}によって、徳川育英会を母体にした私立育英農科として設置されました。

育英農科の後身「東京農学校」第2回卒業式の式辞として榎本武揚は、次のように述べています。

「我農民特有の能力に加ふるに、學術と実験とを以て、農業に属する各般の改良を図らば、其の国家の富源を増進すべきこと、決して擬を容るべからず。(中略) 諸子其れ本校に於て得たる所の技能を實際に施し、以て父兄の業を拡張し、更に進んで国家富強の基を開かれんこと拙者が諸子に望む所なり。」

この言葉は、農業の発展が近代国家の建設にとって極めて重要であり、それを担う農業後継者である卒業生に送ったものです。当時は官立の農学校の創草期でしたが、官吏養成を主目的としない、わが国はじめての私立の農学校として設立した本学の建学の理想がうかがえます。



初代学長 横井時敬博士

本学の建学の理念を築いたのは、明治30年から昭和2年までの30年間、心血を注ぎ本学を育成した、わが国近代農業の鼻祖といわれる初代学長横井時敬^{よこいときよし}です。

横井時敬は農学の教育研究をとおして農業、農業関連産業及び農村文化・農村社会の発展に寄与する人材の育成を目指し、その教育理念を「実学主義」におきました。横井時敬の「稲のことは稲にきけ、農業のことは農民にきけ」は、今もって本学における研究教育の精神的支柱になっており、観念論を排し実際から学ぶ姿勢をこの言葉に込めています。

そして「人物を畑に還す」と。さらに「農学栄えて農業亡ぶ」という警世の句を残し、教育研究は学問のための学問を排し産業界から遊離しない実学研究でなければならぬとしました。

また人格の陶冶を、質実剛健^{しつじつこうけん}、独立不羈^{どくりつふき}、自彊不息^{じきょうやまず}の言葉で表現し、「気骨と主体性」をもった紳士の育成を目指しました。

大学の沿革



第一回卒業記念写真（明治26年）

- 1891(明治24)年 徳川育英会による育英農科として、東京市麴町（現千代田区）飯田河岸に設立。管理長は榎本武揚、ながもちいどく農長は永持明徳。
- 1892(明治25)年 東京市小石川区（現文京区）大塚窪町に移転。育英農科となる。
- 1893(明治26)年 私立東京農学校と改称。
- 1897(明治30)年 大日本農会附属私立東京農学校と改称。教頭に横井時敬就任。
- 1898(明治31)年 東京府豊多摩郡渋谷村常磐松（現渋谷区渋谷4丁目）に移転。
- 1901(明治34)年 大日本農会附属私立東京高等農学校と改称。
- 1903(明治36)年 専門学校令による許可を受ける。
- 1905(明治38)年 農商務省から耕地整理講習部設置委託の命令を受ける。
- 1907(明治40)年 校長に横井時敬就任。
- 1911(明治44)年 私立東京農業大学と改称し、初代学長に横井時敬就任。
大学部（本科、予科）及び高等科設置。
- 1913(大正2)年 大学構内に東京農業大学肥料分析講習部（後に農芸化学講習部と改称）を設置。
- 1924(大正13)年 大学構内に東京高等造園学校を設立。
- 1925(大正14)年 財団法人東京農業大学の認可を受ける。大学令による東京農業大学となり農学部農学科及び予科を設置。
専門学校令による東京農業大学を東京農業大学専門部と改称し、農学科及び農芸化学科を設置。

- 1927(昭和2)年 第2代学長に吉川祐輝^{きっかわすけてる}就任。
- 1937(昭和12)年 専門部に農業拓殖科(後に開拓科と改称)を増設。
- 1938(昭和13)年 農学部^{なうがくぶ}に農業経済学科を増設。
- 1939(昭和14)年 第3代学長に佐藤寛次^{さとうかんじ}就任。
- 1940(昭和15)年 専門部に農業工学科(後に農業土木学科と改称)を増設。
- 1941(昭和16)年 専門部に農村経済科を増設。
- 1942(昭和17)年 東京高等造園学校を合併し、専門部に造園科(後に緑地土木科、さらに緑地科と改称)を増設。
- 1945(昭和20)年 農学部^{なうがくぶ}に農芸化学科及び農業土木学科を増設。
5月戦災をこうむり校舎、諸設備の大部分を焼失。終戦とともに樺太農場(約192ha)、満洲農場(7,500ha)を失う。
- 1946(昭和21)年 東京都世田谷区(現在地)の旧陸軍機甲整備学校跡に移転。
- 1947(昭和22)年 千葉県茂原市に千葉農学部を開設し、専門部林業科と畜産科を増設。
専門部開拓科を廃止。
- 1949(昭和24)年 学校教育法による新制大学設置の認可を受け、農学部^{なうがくぶ}に農学科・林学科・畜産学科・農業化学科・農業工学科・農業経済学科・緑地学科・協同組合学科(25年廃止)を設置。
- 1950(昭和25)年 東京農業大学短期大学を併設。農業科・醸造科他5科を設置するが後に5科は廃止。
- 1951(昭和26)年 学校法人東京農業大学の寄附行為設置が認可された。
- 1953(昭和28)年 農学部^{なうがくぶ}に醸造学科を増設。
大学院農学研究科修士課程農学専攻・農業経済学専攻を設置。
- 1954(昭和29)年 農業化学科を農芸化学科に改称。
- 1955(昭和30)年 第4代学長に千葉三郎^{ちばさぶろう}就任。
- 1956(昭和31)年 農学部^{なうがくぶ}に農業拓殖学科を増設。緑地学科を造園学科に改称。
短期大学に栄養科増設。
- 1957(昭和32)年 大学院農学研究科に修士課程農芸化学専攻を増設。
- 1959(昭和34)年 大学院農学研究科に博士課程農芸化学専攻を増設。
第5代学長に三浦肆玖楼^{みうらしくろう}就任。
- 1961(昭和36)年 第6代学長に内藤敬^{ないとうひし}就任。
- 1962(昭和37)年 農学部^{なうがくぶ}に栄養学科を増設。
大学院農学研究科に博士課程農学専攻及び農業経済学専攻を増設。
- 1968(昭和43)年 栄養学科を栄養学専攻と管理栄養士専攻に専攻分離し、昭和40年度入学生に遡って適用した。
- 1971(昭和46)年 第7代学長に平林忠^{ひらばやしただし}就任。
- 1975(昭和50)年 第8代学長に鈴木隆雄^{すずきたかお}就任。
- 1985(昭和60)年 短期大学長に石丸圀雄^{いしまるくにお}就任。
- 1986(昭和61)年 大学院農学研究科に修士課程林学専攻、畜産学専攻、食品栄養学専攻を増設。
- 1987(昭和62)年 第9代学長に松田藤四郎^{まつだとうしろう}就任。

- 1989(平成元)年 北海道網走市に生物産業学部(生物生産学科・食品科学科・産業経営学科)を新設。
短期大学長に松田藤四郎就任。
- 1990(平成2)年 大学院農学研究科林学専攻、畜産学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。博士後期課程生物環境調節学専攻、修士課程農業工学専攻、醸造学専攻、国際農業開発学専攻、造園学専攻を増設。
これにより、大学院農学研究科に11専攻となる。
東京農業大学短期大学を東京農業大学短期大学部と校名変更。
- 1991(平成3)年 農学部農業拓殖学科を農学部国際農業開発学科に改称。
天皇皇后両陛下ご臨席のもと創立100周年記念式典(於東京プリンスホテル)を挙る。
- 1992(平成4)年 短期大学部農業科を、生物生産技術学科及び環境緑地学科に改組。
短期大学部醸造科を醸造学科に、短期大学部栄養科を栄養学科に改称。
- 1993(平成5)年 大学院生物産業学研究科修士課程生物産業学専攻を増設。
- 1995(平成7)年 大学院生物産業学研究科生物産業学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
- 1998(平成10)年 農学部10学科を、農学部(農学科、畜産学科)、応用生物科学部(バイオサイエンス学科/新設、生物応用化学科/農芸化学科改称、醸造科学科/醸造学科改称、栄養科学科/栄養学科改称)、地域環境科学部(森林総合科学科/林学科改称、生産環境工学科/農業工学科改称、造園科学科/造園学科改称)国際食料情報学部(国際農業開発学科、食料環境経済学科/農業経済学科改称、生物企業情報学科/新設)に改組。
神奈川県厚木市船子に厚木キャンパス(農学部)新設。
3キャンパス6学部19学科体制スタート。
- 1999(平成11)年 第10代学長に進士^{しんじいそや}五十八就任。
ISO14001の認証を取得
- 2002(平成14)年 大学院農学研究科に修士課程バイオサイエンス専攻、国際バイオビジネス学専攻を増設。醸造学専攻、食品栄養学専攻、農業工学専攻、造園学専攻、国際農業開発学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
大学院2研究科14専攻体制スタート。
- 2004(平成16)年 大学院農学研究科バイオサイエンス専攻、国際バイオビジネス学専攻の修士課程を博士前期課程とし博士後期課程を増設。
- 2005(平成17)年 国際食料情報学部生物企業情報学科を国際バイオビジネス学科に改称。大学院農学研究科博士後期課程生物環境調節学専攻を環境共生学専攻に改称。
第11代学長に大澤^{おおさわかんじゅ}貫寿就任。
- 2006(平成18年) 農学部バイオセラピー学科、生物産業学部アクアバイオ学科を増設。
- 2010(平成22年) 生物産業学部食品科学科を食品香粧学科に改称
大学院農学研究科に修士課程バイオセラピー学専攻を増設
大学院生物産業学研究科博士前期課程にアクアバイオ学専攻を増設、既存の生物産業学専攻の博士前期課程を、生物生産学専攻、食品科学専攻、産業経営学専攻の3専攻に改組



緑と生命を考究する実学の府

東京農業大学
東京農業大学短期大学部

学長 おお さわ かん じゅ
大澤 貫 寿

新入生諸君、入学おめでとう。大学を代表して心から歓迎します。

東京農業大学は、明治24（1891）年、徳川育英会の経営する育英農科として創設されました。創立者は、明治政府で文部、外務大臣などを歴任した子爵榎本武揚先生です。先生は、ヨーロッパの先進的科学技术がわが国の産業発展にとっていかに重要か、そのための教育がいかに大切かを痛感し、本学を設立しました。

本学の学風は、創立119年の長い歴史の上に培われたものですが、その基礎を築かれたのは、米粉の塩水選法を考案し、我が国農学の先駆者横井時敬先生です。「稲のことは稲に聞け」「農業のことは農民に聞け」は、まず知識と経験によって裏打ちされた知を持って現場にある問題を抽出し、解決する姿勢、これが「実学主義」であり、「人物を畑に還す」という建学の精神と共に、本学の教育理念となっています。そして、食料、環境、健康、バイオマスエネルギーなど、農学関連分野で社会貢献できる人材を育て、農学の価値を高め、世界の農業、環境問題に貢献すべく、国際的に評価される実学を重んじた特色ある教育、研究を実践しています。

現代社会は、文化や価値観が激しく変化し続けています。また、IT化など先端的な技術革新により、人々が大きな恩恵を受け豊かさを享受してきました。しかし、その恩恵は全ての地球上に及んでいる訳ではありません。地球上のほんの一部を豊かにしていることを忘れてはなりません。そして、百年に一度の金融危機や人類の発展の代償となった深刻な環境破壊のほか、人権問題など地球規模の課題は山積されたままです。今、私たちがどのように立ち振る舞うべきかを真剣に考えなければならない時がきています。そのような社会の中において、個々の明確な自覚のもと、しっかりとした問題意識を持ち、その問題を解決してゆくための力を養うことは、特に大切なことです。

諸君は、東京農大で勉強に研究に、クラブやボランティア活動に新世紀の担い手にふさわしい国際人をめざし、充実したキャンパスライフを送ってください。本学の特色ある教育は、研究室での実験、演習を通して、教員と共に課題・研究に取り組み、コミュニケーションのはかれる環境です。また、最先端の研究を支え、環境にも配慮した施設・設備を機能的に配備しています。学術情報センターやキャリアセンターではIT関連システムの充実によって、3キャンパス同時同一情報サービスの提供を行っています。さらに、各種海外留学プログラム等を積極的に活用して、是非とも生涯の基礎となる力を培ってほしいと思います。

この『学生生活ハンドブック』は、①キャンパス内外で学生として知っておくべきこと、②学習を進めていくうえで知っておくべきこと、③『学則』をはじめ、学生生活の基本ルールなどが載せられています。すべて入学から卒業までの重要事項ですから、常時手元において十分活用してください。合わせて「東京農大学生ポータルシステム」を活用し、いきいきとチャレンジ精神旺盛な大学生活を送ることを希望します。



創造性を育む場所と時期を 意識したキャンパスライフ

学部長 横濱道成

新入学生の皆さん、入学おめでとう！ 生物産業学部を代表して心より歓迎します。新入学生の皆さんは、全国各地から当地（網走市）に集まって来ました。皆さんは、入学の動機や学びたい事はそれぞれ異なりますが、入学を機にして、東京農業大学のオホーツクキャンパスで学ぶ同志です。これからのキャンパスライフでは、文化や習慣など多様な環境の中で育って来た皆さんがお互いを刺激し、学科や学年を越えて、真の友人と出会える機会を得ることと思います。

本キャンパスは北緯43度に位置し、わが国の北端（オホーツク圏）にある大学です。北にはオホーツク海（冬季には結氷する）が広がり、オホーツク海に注ぐ大河（アムール川）を通してロシア、中国、モンゴルとつながっています。背地には多様な動植物が生息する知床半島（世界自然遺産）や阿寒の森があります。またオホーツク海や多数の湖沼からは豊富な水産物が、広大な圃場からは農産物が生産され、日本の食料自給を支える農林水産業の基地となっています。しかし一方で、オホーツク圏の自然にも人間活動との軋轢が発生しており、この問題には地域住民と連携した科学的解決が急がれています。皆さんにとって、この環境がみな学びの場所です。「人生には創造性が育まれる時期と場所がある」と言われます。本キャンパスで学ぶ4年間は皆さんにとって、創造性を育む時期に当り、キャンパスやこの地はその場所となります。

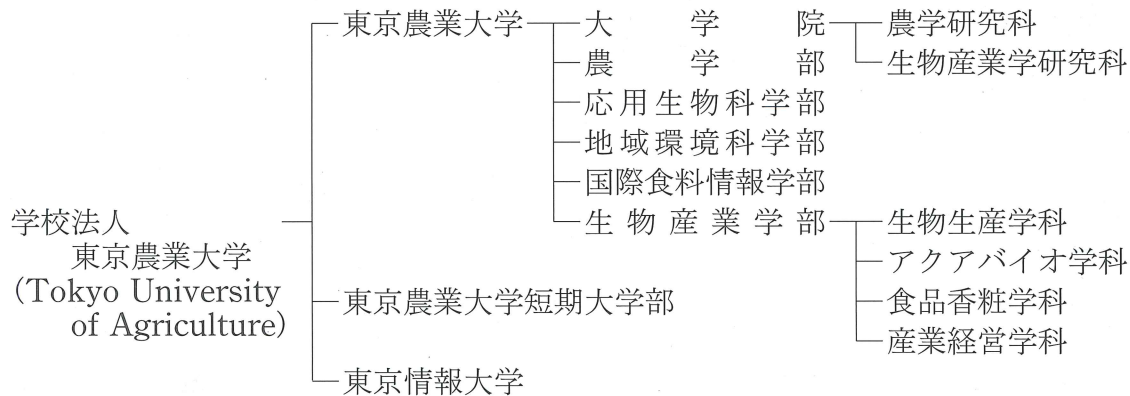
大学では、これまでの学校生活とは違って、勉強にしても課外活動にしても皆さんが主体性をもって自主的に取り組むことが求められます。学習や体験を通して、本質の捉え方や考え方を学び、分析力や判断力、創造力などを養ってください。そのための手引き書が「学生生活ハンドブック」です。その上で、何か不明な点は遠慮せずに先生や担当事務員に相談して下さい。

「生活編」では、学生としての基本ルールを中心に、福利厚生 of 諸制度、課外活動のガイドなど学生生活を送る上で必要なことが記載されています。「学習編」では、配当科目、履修科目の組み立て（履修計画）、試験、各種の資格取得、卒業要件など単位取得のために知っておかなければならないことが記載されています。さらに、学術情報センター（図書館とコンピューター教室）の利用方法や留学や短期海外実習についての事項が記載されています。また、就職活動など卒業後の進路についても書かれています。有意義な学生生活を送るために、この「学生生活ハンドブック」をよく読んで、利用して下さい。

新しい生活を迎えるにあたっては、皆さんには期待とともに不安もあると思います。大学での4年間の過ごし方は、その後の一般社会での活躍に大きく影響します。皆さんには健康に留意され、友人と楽しく、そして目的意識をもってキャンパスライフを送ることを望みます。

大学組織及び生物産業学部教員

1 東京農業大学組織



2 生物産業学部教員組織 (Faculty of Bioindustry)

学 長 大澤 貫寿
 学 部 長 横濱 道成
 学生部長 増子 孝義

◇生物生産学科 (Dept. of Bioproduction)

学科長 吉田 穂積 主 事 相馬 幸作

植物生産分野	作物生産管理学研究室	教授	吉田 穂積
		准教授	伊藤 博武
		准教授	中丸 康夫
		助教	笠島 真也
	植物バイオテク研究室	教授	小栗 秀
		助教	坂本 光
動物生産分野	動物生産管理学研究室	教授	増子 孝義
		准教授	相馬 幸作
	動物バイオテク研究室	教授	橋詰 良一
		助教	下井 岳
生物資源保全分野	植物資源保全学研究室	教授	鈴木 悌司
		講師	中村 隆俊
	動物資源管理学研究室	教授	横濱 道成
		准教授	吉川 欣亮
		講師	白木 彩子
		助教	和田 健太

亀山 祐一

◇アクアバイオ学科 (Dept. of Aqua Bioscience and Industry)

学科長 塩本 明弘 主 事 園田 武

水産資源分野	水産増殖学研究室	教授	水野 眞
		准教授	千葉 晋
		講師	園田 武
	水産資源管理学研究室	准教授	小林 万里
		講師	金岩 稔
アクアバイオテク分野	アクアゲノムサイエンス研究室	教授	白井 滋
		講師	松原 創
	水圏生物化学研究室	教授	坂井 勝信
		講師	山家 秀信

渡邊 健一

オホーツク水圏環境分野	水圏生態学研究室	教授	谷口 旭	
		准教授	西野 康人	
	水圏環境学研究室	教授	塩本 明弘	柏井 誠
		講師	朝隈 康司	
◇食品香粧学科 (Dept.of Food and Cosmetic Science)				
学科長	佐藤 広頭	主事	中澤 洋三	
開発加工分野	資源学研究室	教授	永井 毅	
		助教	中澤 洋三	
	食品製造科学研究室	教授	永島 俊夫	佐藤 広頭
		准教授	山崎 雅夫	
		助教	武内 純子	
食品安全分野	応用微生物学研究室	教授	中川 純一	
		助教	藤村 朱喜	
	品質制御学研究室	准教授	宮地 竜郎	村松 良樹
医食香粧分野	生物化学研究室	教授	大山 徹	渡部 俊弘
			丹羽 光一	
	食品香粧機能学研究室	教授	西澤 信	戸枝 一喜
			藤森 嶺	
		助教	妙田 貴生	
◇産業経営学科 (Dept.of Business Science)				
学科長	長澤 真史	主事	阪井 健男	
産業経営会計分野	会計学研究室	講師	坂田 圭子	
	環境ビジネス論研究室	講師	当間 政義	
	情報工学研究室	講師	阪井 健男	
	情報メディア論研究室	教授	竹下 幸一	
	マーケティング論研究室	講師	野村比加留	
	リスクマネジメント論研究室	教授	徳谷 昌勇	
	流通経済論研究室	教授	菊地 哲夫	
生物産業ビジネス分野	アグリビジネス論研究室	教授	美土路知之	
	環境経済学研究室	教授	黒瀧 秀久	
	農業経営学研究室	教授	長澤 真史	
	北東アジア農業論研究室	講師	范 為仁	
地域環境経済分野	環境文学論研究室	教授	若松美智子	
	地域環境政策論研究室	教授	石 弘之	
		准教授	笹木 潤	
	地域産業経済論研究室	教授	田中 俊次	小松 善雄
◇生物産業学部共通				
教養分野	外国語第一研究室	講師	梅村 博昭	
	外国語第二研究室	准教授	君島 利治	
	外国語第三研究室	教授	若松美智子	
		講師	范 為仁	
	健康科学研究室	准教授	桜井智野風	
	教育学研究室	教授	井上 正道	伊東 捷夫
		准教授	瀬戸 健一	
	博物館情報学研究室	准教授	宇仁 義和	
◇網走寒冷地農場				
	教育研究部	准教授	伊藤 博武	

エコロジーキャンパスの取組み

東京農業大学は「ISO14001：2004」の認証を受けて活動しています

世田谷キャンパスは平成14年2月、厚木キャンパス・オホーツクキャンパスは平成15年3月にISO14001の認証を取得しました。平成19年12月に第二回更新審査を受け、世田谷キャンパスに合わせて3キャンパスの足並をそろえ、平成20年2月に「ISO14001：2004」の認証継続を受けました。

ISO14001とはISO：国際標準化機構（International Organization for Standardization）が制定している環境マネジメントシステムの国際規格です。

環境マネジメントシステムとは、会社や学校などの組織の活動によって生じる環境への負荷を、恒常的に低減するよう配慮し、改善していくシステムのことをいい、その流れは、その基本となる環境方針を自主的に定め、これを実現するために計画（Plan）を立て、実行および運用（Do）し、その結果を点検および是正（Check）して、不適合な点があれば見直し（Action）で計画を立て直すサイクル（PDCAサイクル）になっています。

簡単に言えば、「自分たちのまわりで環境に負荷を与えるようなものがあるならば、自主的にそれを分析して負荷を低減する計画を立てて実行する。その実行した結果を点検して、一歩進んだ負荷低減の計画を立て直して実行していく。」こととなります。

学生のみなさんのご協力をお願いします

本学では、『東京農業大学における環境への取組み方針』に基づいて、「東京農業大学環境マネジメントシステム」の運用を開始し、『エコキャンパスの取組み』としての活動を進めています。

そこで、学生のみなさんには以下の点について協力をお願いします。

1 廃棄物の再生利用、適正処理の推進

- 廃棄物の再生利用、適正処理を進めます。
- 再生品の購入を進めます（グリーン購入）。
- 学生実験で取り扱う化学物質の安全で適正な処理を徹底します。

「ゴミは分別しましょう。キャンパス内の分別ボックスを活用しましょう。みなさんの協力が廃棄物を減らします！リサイクルにつながります！」

1 廃棄物の発生抑制

- 大学内は、紙が廃棄物となって大量に発生しています。
 - 情報（書類を中心とした）の電子化を推進し、印刷物の量を減らします。
- 「キャンパス内で電子化情報が利用できるように環境を整備します！」

1 省エネルギー・省資源の推進

- 節電・節水等の省エネを推進します。
- 「何気なく使っている「エネルギー」、「資源」を意識しましょう！」

❖ 東京農業大学 環境方針

東京農業大学における環境への取組み方針

東京農業大学は、今世紀を地球環境保全、改善のもとでの生物との共生が最重要と捉えています。農学系の総合大学として、地球と人類の最大の課題である「食料」「環境」「健康」「バイオマスエネルギー」問題に積極的に挑戦していかなければなりません。本学は、人間活動の適切な自然と調和の発展をはかり、農の思想を基本に持続可能な循環型社会の構築に向け、実践的な環境教育と研究を通して社会に貢献する緑と生命を科学する大学として、その使命を果たすことを目指します。

環境マネジメントシステムの基本事項を守り、継続的改善、環境汚染の防止等を約束するものです。

基本方針

教育

1. 各キャンパスにおける自然的環境の維持と動植物の保全を推進する。
2. 学生への環境教育を通して、現在の環境問題の本質を理解させ、知識の涵養を図る。

研究

1. 環境問題解決のための、学部共同研究、産学共同研究ならびに社会連携による研究などを推進する。
2. キャンパス内の廃棄物の再生利用による資源化をはかると共に化学物質など廃棄物の抑制に努め環境汚染の予防に努める。
3. 海外の姉妹校との連携による国際的な食・農環境に関する教育的ネットワークを構築する。

法規

1. 環境に関する法規、規制、協定等を遵守する。

また、この環境方針は、学内全ての学生・教職員に周知徹底すると共に、文書およびインターネットを通じて、広く社会に開示する。

学生ISO（オホーツクエコクラブ）委員の募集

キャンパスの環境問題は、教職員と学生が一体となり取り組まなければなりません。

学生のみなさん一人一人が日頃から感じている、『環境に負荷を与える活動を少しでも低減』し、『継続的に改善し発展』していくために一緒にこの問題に取り組みましょう。

※4月中に募集について掲示します。詳細等お問い合わせは総務課窓口まで



平成22年度(2010年度)東京農業大学 生物産業学部 年間授業計画

月	日 (曜日)	前学期 (平成22年4月～平成22年9月)
4	2日(火)	編入学生オリエンテーション (履修説明会) 入学式 新入生・編入学生オリエンテーション 在学生健康診断・学科ガイダンス 新入生・編入学生健康診断 新入生・編入学生学外オリエンテーション 前学期授業開始 昭和の日 振り替え休講 (5月18日大学の記念日分)
	4日(日)	
	4日(日)～9日(金)	
	5日(火)～8日(木)	
	5日(木)	
	8日(木)・9日(金)	
	12日(月)	
5	29日(木)	大学の記念日 (授業実施)
	30日(金)	
6	18日(火)	実学体験週間 卒業論文題目届提出締切日
	8日(火)～10日(木)	
7	30日(水)	教育後援会地方懇談会 前学期定期試験
	17日(土)～18日(日)	
8	27日(火)～30日(金)	夏季休業 夏季集中授業
	2日(月)	
9	31日(火)	夏季休業 夏季集中授業 前学期授業及び試験の総括
	1日(水)～10日(金)	
		後学期 (平成22年9月後半～平成23年3月)
9	13日(月)～17日(金)	後学期授業開始 9月卒業
	21日(火)	
10	30日(木)	収穫祭準備のため午後休講 収穫祭 後片づけのため休講
	8日(金)	
	9日(土)～11日(月)	
11	12日(火)	東京農大教育フォーラム 推薦入試 (授業実施)
	20日(土)	
12	19日(金)～20日(土)	} 冬季休業
	22日(水)	
1	7日(金)	後学期授業再開 授業補講日 後学期定期試験 後学期定期試験予備日 卒業論文提出締切日
	11日(火)	
	21日(金)	
	25日(火)～28日(金)	
	29日(土)	
	31日(月)	
2	14日(月)～18日(金)	後学期授業及び試験の総括 後学期授業及び試験の総括予備日
	19日(土)	
3	1日(火)	卒業確定者の発表 学校法人の創立記念日 卒業式
	6日(日)	
	17日(木)	

〈インターネットを利用した学生サービス〉

（学生ポータルサイトとは？）

学生に対する告示、連絡、呼び出し、休講情報など重要な連絡は、すべて学生ポータルサイト及び掲示板で行います。掲示を見落とすと学生生活に支障が生じます。登下校の際には必ず学生ポータルサイト又は各課等の掲示を確認するようにして下さい。

1 学生ポータルサイト

学生ポータルサイトはインターネットを利用したサービスで自宅、学内のコンピュータ自習室等を利用し、アクセスすることができます。機能や使用方法について説明します。

(1) 学生ポータルサイトでできること

The screenshot shows the Tokyo Nodai Information Portal interface. At the top, it displays the university name and logo, the title 'TOKYO NODAI Information Portal', and user information 'ログインユーザ名PTUS03 ログアウト'. Below the header, there are navigation links like '【TOP】' and a list of services categorized into '個人向け情報' (Personal Information), '授業情報' (Class Information), '照会' (Inquiry), '就職情報サービス' (Job Information Service), '図書館情報サービス' (Library Information Service), and 'その他' (Others). The main content area is divided into two sections: 'メッセージ受信一覧ポータル' (Message Reception List Portal) and '個人週間スケジュール' (Personal Weekly Schedule). The message list shows 5 items, with the first two being notices about campus closure during spring and summer holidays. The personal schedule shows the week of February 13th to 19th, 2009, with library opening hours indicated for the 14th and 15th.

タイトル	種別	送信者	掲示日
春季休暇中の校医在室日のお知らせ	お知らせ	[学生生活支援課健康推進センター]	2月2日(月) 17時27分
春季休暇中中継室閉室の変更について	お知らせ	[学生生活支援課健康推進センター]	1月28日(水) 16時50分
公務員専門集中講座のご案内	お知らせ	[キャリアセンター事務局]	1月19日(月) 14時36分
平成20年度農方会新春賀状口絵決定	お知らせ	[学生生活支援課]	1月16日(日) 08時55分

2009年 2月	13日(金)	14日(土)	15日(日)	16日(月)	17日(火)	18日(水)	19日(木)
20003氏名		9:00-18:00 図書館開館	9:00-18:00 図書館開館				

授業に関する情報や登録（Webシラバス、履修登録、成績確認、授業評価、住所登録変更）ができます。個人的な呼び出しや大学からの連絡を閲覧できると同時に携帯電話のメールアドレスを登録すれば受信ができます。

(2) 利用方法

まず、これらのサービスを利用するためには本学のID・パスワードを取得し、ネットワークガイダンスを受講する必要があります。学内のパソコンを利用するときはオホーツク学術情報センター（P92）を参照して下さい。

(3) 利用者IDカード

入学すると、利用者IDカードが配布されます。利用者IDは、農大のネットワークサービスを利用するときに必要な利用者を認識する符号で、8桁の学籍番号が利用者IDとなります。利用者IDは次のような場合に必要で、利用する際はパスワードも必要になります。

- 学生ポータルサイトを利用する
- 大学の電子メールを使用する
- 農大アグリネットを利用する
- 授業でコンピュータ演習室・実習室のパソコンを使用する
- 学術情報センター、コンピュータ自習室、3キャンパスラボ（世田谷キャンパス1号館1F）などのパソコンを使用する
- インターネットラウンジを利用する

(4) パスワードについて

上記のサービスを利用するときに、利用者本人であるかどうかを確認するため、パスワードの入力が求められます。パスワードは利用者IDカードに印字されています。パスワードは銀行のキャッシュカードの暗証番号と同様にとっても大切なものです。絶対に他の人に見せないで下さい。

パスワードがわからなくなった場合は利用者IDカードの再発行となります(有料)ので注意して下さい。

利用者IDカードの再発行は約1週間かかりますので、その間は上記のサービスを利用することができません。

(5) 利用者IDの有効期限と情報倫理教育受講について

利用者IDは、配布当日から卒業まで使用することができます。しかし、この利用者IDを使用するにあたり、皆さんが大学の様々なサービスを正しく使うことができるように、「情報倫理教育（ネットワークガイダンス）」を受講することが義務付けられています。この情報倫理教育を受講しない場合は5月31日で利用者IDの使用を停止します。

情報倫理教育（ネットワークガイダンス）は、必修科目である「フレッシュマンセミナー」の中で実施しますので、必ず出席して下さい。万が一欠席した場合は、学生サービス課に相談して下さい。

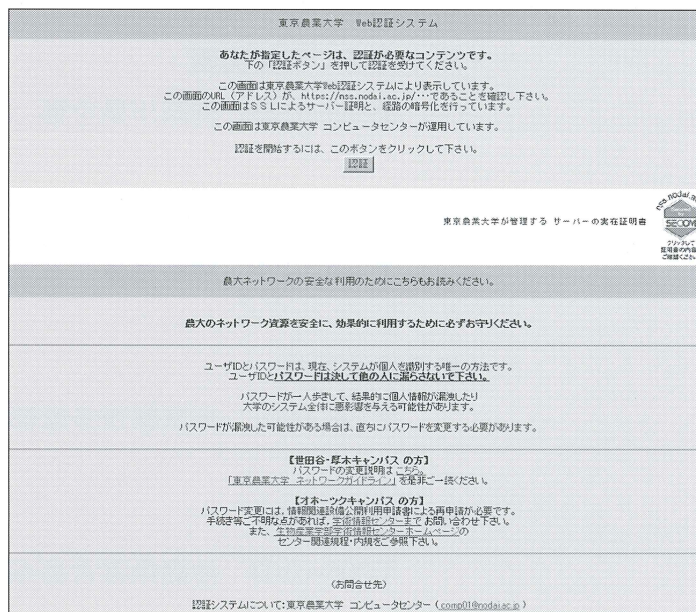
(6) ネットワーク利用上の注意

ネットワークを利用するときは、次のことに注意して下さい。(東京農業大学ネットワーク利用ガイドライン要約)

- ① ネットワークを利用したすべての行為に全責任を負うことになるので、社会の一員としての自覚に基づいて利用すること。
- ② 複数のIDを持つことはできない。
- ③ 他の利用者に自分のIDとパスワードを教え、電子メールや学生ポータル等を使わせないこと。また、他の利用者のパスワードの解読をしないこと。
- ④ 他の利用者のファイルやデータを勝手に削除したり、コピーしたりしないこと。
- ⑤ 大量のデータを送信したりすることで、他の利用者の利用を妨げないこと。
- ⑥ 大学のネットワークは教育・研究を目的としているので、営利目的、政治活動、布教活動などで使用することはできない。
- ⑦ コンピュータシステムを壊したり、故障の原因となるような行為をしないこと。
- ⑧ 第三者の著作物を利用するときは、著作権法の規定に従い、勝手にコピーをしないこと。
- ⑨ 他の利用者の電子メールを勝手に読み、削除・コピーをしたり、偽造したりしないこと。
- ⑩ いやがらせや公序良俗に反する内容、不確かな内容の情報をWebページを使って流したり、迷惑となる電子メールを送ったりしないこと。
- ⑪ コンピュータウイルスを持ち込まないこと。

(7) アクセスの方法

本学のホームページにアクセス (<http://www.nodai.ac.jp>) し、トップページにある「在学生・教職員の皆さんへ」をクリックする。認証画面に利用者ID・パスワードを入力するとTOKYO NODAI Information Portalが開きます。あとは自分の必要とする機能を使って下さい。



(8) 注意事項

- ① 学外からアクセスする場合の通信費は利用者負担です。
- ② システムメンテナンス等でサービスを休止することがあります。

(9) 問い合わせ先

学生ポータルサイト運用グループ e-mail portal-t@nodai.ac.jp

キャンパス information

- オホーツクキャンパス

〒099-2493 北海道網走市八坂196

学生サービス課 0152-48-3813

総務課 0152-48-3811

入試課 0152-48-3814

キャリアエクステンション課 0152-48-3816

学術情報センター 0152-48-3818

医務室 0152-48-3817

- 世田谷キャンパス

〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1

- 厚木キャンパス

〒243-0034 神奈川県厚木市船子1737

- 厚木農場二宮柑橘園

〒259-0123 神奈川県中郡二宮町二宮山王台2222

- 富士農場

〒418-0109 静岡県富士宮市麓422

- 奥多摩演習林

〒198-0201 東京都西多摩郡奥多摩町氷川2137

- 宮古亜熱帯農場

〒906-0103 沖縄県宮古島市城辺字福里72-2

- 網走寒冷地農場

〒099-3501 北海道網走市音根内59-8